

看護の統合と実践

- 1 看護の統合と実践の考え方
- 2 看護の統合と実践目的・目標
- 3 看護の統合と実践の構成
- 4 看護の統合と実践学習内容

1 看護の統合と実践の考え方

看護の統合と実践では、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」で学習した内容をより臨床実践に近いかたちで学習し、知識技術を統合する内容とした。

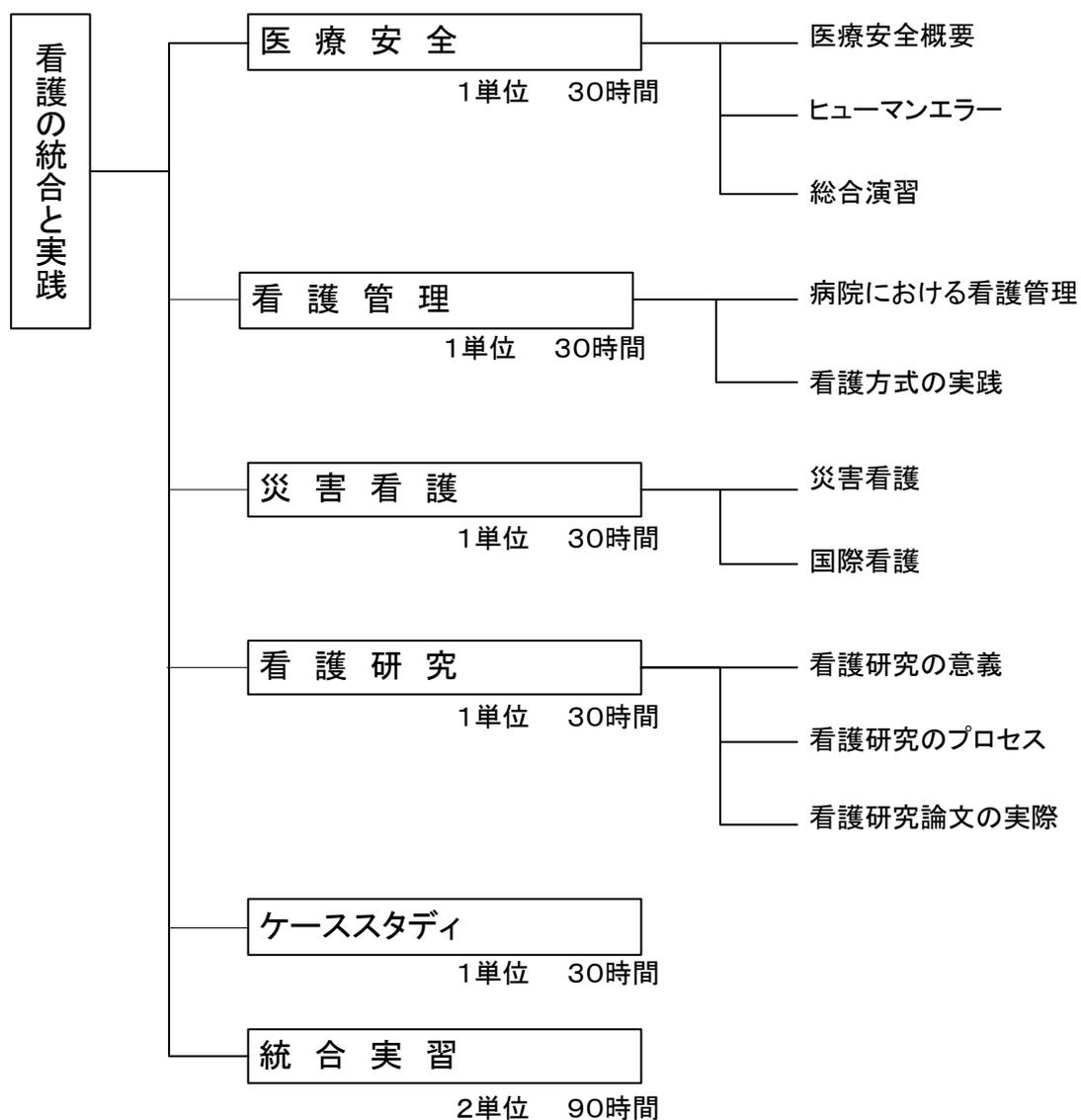
看護の実践力を高めるために各分野の学習を積み上げ、臨床に必要な実務がスムーズに行えるよう基礎教育の充実を図るものである。

2 看護の統合と実践目的・目標

目的 現代の医療・医療保険の仕組みを理解し、医療チームの一員として、看護サービスが実践・遂行できる能力を身につける。

- 目標
- 1 チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップおよびリーダーシップを理解する。
 - 2 看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。
 - 3 医療安全の基礎的知識を含む内容。災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解する。
 - 4 国際社会において、広い視野に基づき看護師として諸外国との協力を考えることができる。
 - 5 看護技術を臨床の現場で応用し実践する能力を身につける。

3 看護の統合と実践の構成



4 看護の統合と実践学習内容

科目名	看護管理	単位数	1 単位	30 時間
科目区分名	看護の統合と実践			
開講期	3 年次 前期			
教員名	齊藤 茂子	栗原 良子	五十嵐 良子	

授業概要：看護実践のできる知識と技能をもった人的資源・物的資源・財的資源を、有効利用するために資源の維持・活用するための「しくみ」としての看護管理を学ぶ。さらに、看護サービスを提供するために、組織目的達成のマネジメント・協働のためのマネジメント・情報のマネジメント・技術のマネジメント・サービスの評価について学ぶ。

- 到達目標：1 病院において医療全体が効果的、経済的に機能するための管理方法の基本を理解する。
- 2 看護組織における看護サービスの管理方法を理解する。
- 3 病棟における看護業務の管理方法を理解し、統合実習につなげる
- 4 臨地実習で直面した臨床の問題を挙げ、その解決のためには何が必要か学習し、自らが看護師であるという前提のもと看護の質を向上するための問題解決策を提案する。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	看護とマネジメント ①看護管理学とは ②マネジメントとは ③看護におけるマネジメント ④看護のマネジメントが行われる場 ⑤看護ケアマネジメントと看護職の機能	講義
2	看護職の協働 ①看護ケア提供システム ②コミュニケーション 他職種との共働 ①情報 ②サービスの評価	講義
3	組織目的達成のマネジメント ①理念の形成と浸透 ②看護の組織化 ③組織の職位と服務 規程	講義
4	看護を取り巻く諸制度 ①看護師の定義 ②看護職と専門職制 ③看護職と法制度 ④看護業務 ⑤看護職の職業倫理 ⑥看護職の教育制度	講義
5	医療制度 ①医療保険制度 ②医療費支払いシステム ③看護ケアの対価 ④看護政策と制度	講義
6	看護職のキャリアマネジメント・看護職の教育制度	講義
7		講義
8	臨地実習で直面した臨床の問題を挙げ、その解決のためには何が必要か学習し、自らが看護師 であるという前提のもと看護の質を向上するための問題解決策を提案する。 1. 事前課題レポートの内容を共有 2. グループで焦点を当てる問題を決定 3. 問題解決策の提案のために学習すべき内容と、活用する学習資源(文献・資料)を決定(個々 の学習課題を決定) 4. 学習成果をグループで共有し、学習内容に基づき問題解決策を検討 5. 発表準備 6. 発表	講義 演習
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	

評価方法 筆記試験 50 点 レポート 50 点

テキスト 看護の統合と実践 [1] 看護管理 (医学書院)

参考書

科目名 医療安全 単位数 1単位 30時間
 科目区分名 看護の統合と実践
 開講期 3年次 前後期
 教員名 櫻井 貴恵 高柳 克江

授業概要：医療安全を取り巻く状況は急速な変化を遂げ、新たな政策や制度が策定され、医療安全推進の取り組みが行われている。そのような医療環境の中で、看護師は安全で良質なケアを提供し、自らが医療事故のリスクを負わないためにも医療安全に関する基本的な知識・技術の習得が必要である。ここでは医療安全の概要、ヒューマンエラー、医療現場における事故防止のための取り組み、倫理的原則などについて学ぶ。演習では、実習中のヒヤリハットを分析し、自己モニタリング力をつける。また、KYT や事例分析を通して事故の要因、対策をグループで検討し事故防止対策を理解する。

- 到達目標：1 医療安全の概要を理解する。
 2 医療事故をヒューマンエラーの視点で考えることができる。
 3 ヒヤリハット分析を通して自己モニタリング力をつける。
 4 組織における医療安全への取り組みを理解する。
 5 KYT や事例分析を通して事故防止対策を理解する。

「自己モニタリング力」：自分の考えや行動を客観視し、危険なことをしようとしている自分の行動や判断を修正し、事故を防ぐ能力

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	看護学生の実習と安全 実習における事故の法的責任と補償 実習中の事故予防 ヒヤリハットの分析と事故防止	講義
2	医療事故発生のメカニズムと防止対策 ヒューマンエラー 事故分析と報告 SELL モデル分析	講義
3	演習 実習中のヒヤリハットとその分析 SELL モデル分析 4 事例	演習
4	医療安全と看護の責務：看護職の法的規定 注意義務 医療安全施策と医療の質の評価	講義
5	医療事故等の報告制度	講義
6	看護上の危険と防止策 感染、医療機器・機材、医薬品への曝露、労働形態・作業	
7	医療機関における安全対策 医療安全を確保するための措置・指針、医療安全委員会、職員研修、院内感染の防止 医療品の安全管理 医療機器の保守点検 医療安全管理者 患者家族との協働 医療事故後の対応 初期対応の考え方・方法、紛争化の防止策	講義
8	看護における安全対策 看護業務と事故の背景、要因、 医療事故の種類と安全対策…誤薬 患者取り違い 針刺し 与薬等 患者、同僚および第三者による暴力、クレームへの対策	講義
9	演習 KYT トレーニング	演習
10	演習 看護事故の背景、要因、対策の検討	演習
11	医療安全の流れ	講義
12	アンガーマネジメント	講義
13	埼玉医療安全大会の参加・聴講	講義
14		
15	まとめ 筆記試験	

評価方法 筆記試験 100点

テキスト ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践(2)医療安全 (メディカ出版)

科目名 災害看護・国際看護 単位数 1単位 30時間
 科目区分名 統合分野
 開講期 3年次 前後期
 教員名 尾形 洋子 宮崎 賢哉

授業概要：現代社会においては自然災害のみならず、人的災害も含め発生危機が存在する。我々看護職には、災害発生時には医療施設内だけでなく、地域社会や世界での活動が期待され、その対象や時期・役割は幅広いと言える。ここでは、災害直後から支援できる看護の必要な基本的知識とその実践を学んで行く。さらに、国際化する日本社会における医療・看護の役割について学ぶ。

- 到達目標：1 災害および災害看護に対する関心を高める。
 2 災害サイクルにおける看護者としての基礎的知識を養う。
 3 災害が被災者の生活や健康に及ぼす影響を理解する。
 4 地域住民と共に災害時における訓練の実践を通し、地域での災害看護を理解する。
 5 国際化する地域社会を見据え、外国人住民を理解し、災害時・緊急時・医療場面などにおける看護師としての支援の在り方を学ぶ。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	災害と災害看護の歴史 災害看護と災害サイクル・災害に関連する法律	講義
2	被災者の生活や健康に及ぼす影響、地域防災・減災の対策の取り組み	講義
3	避難所運営の実際と課題	講義
4	災害発生から急性期・中期から長期の看護（被災地病院、避難所での支援）	講義
5	災害の看護（避難所生活で起こる身体への影響と支援）・心理過程の変化（心のトリアージ）	講義
6	災害で必要な技術：トリアージの種類と方法・トリアージの実際など	講義
7	災害時を想定した避難所生活での支援と看護活動（グループワーク）	演習
8	災害で必要な技術：災害で特有な外傷、損傷・被災地からの搬送（グループワーク）	演習
9	避難所設営・運営の実演のための準備	演習
10		
11	演習： 避難所設営・運営の実施 地域住民とともに実演活動	演習
12		
13	国際看護	講義
14	・多文化共生社会について ・外国人住民への災害時、緊急時、医療場面における情報伝達の方法	
15	まとめ 筆記試験	

評価方法 筆記試験 100点

レポート

テキスト 災害看護 心得ておきたい基本的な知識（南山堂）

科目名 看護研究 単位数 1単位 30時間
 科目区分名 看護の統合と実践
 開講期 3年次 前後期
 教員名 古橋 洋子 渡邊 亮一

授業概要：看護研究の意義と必要性を学び、研究のプロセスを理解する。また、研究論文の査読を通して、論文の批判的読み方が解り、データの収集方法や妥当性を高めるための方法を学ぶ。臨床の場で生じた看護に関する疑問や問題に対して研究的に取り組む必要性を理解し、看護実践や、看護の知識体系の改善に結びつき、ケアの実際が変わり、試行錯誤のケアではなく知識に基づいたケアに結びつくことを学ぶ。さらに看護専門職業人として、看護実践を科学的に展開するための研究のプロセスについて基礎的知識を学ぶ。

- 到達目標：1 看護における研究の意義を学び、研究の必要性を理解できる。
 2 研究のプロセスを学び、実際の進め方を理解する。
 3 先行研究を批判的に読む力が高まり、研究結果を有効に活用することができる。
 4 データの収集と分析の仕方を理解する。
 5 専門職として継続して学び続ける研究的態度を養う。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	看護研究の意義と目的	講義
2	研究の種類 臨床事例研究 調査研究 実験研究 論理的研究 記述的研究	講義
3	研究の進め方 研究計画書 研究方法の選択 データの収集 データの解析方法	講義
4	看護理論と看護研究	講義
5	研究論文の読み込みと評価	講義
6	テーマの絞り込み	講義
7	研究計画書	演習
8	統計データのまとめ方・解析法	講義
9	データの種類・度数分布表 図示法	講義
10	変数と操作的定義	講義
11	確立分布	講義
12	推定・検定・相関	講義
13	カイ2乗検定 t検定	講義
14	演習	演習
15	まとめ 筆記試験 (50分)	

評価方法 研究計画書の作成 成果物 100点 配点(50点 50点)

テキスト 看護のためのケーススタディ (医学書院)

参考書

科目名 ケーススタディ 単位数 1単位 30時間
 科目区分名 看護の統合と実践
 開講期 3年次 前期
 教員名 茂木 葉子

授業概要：実習での看護実践を振り返り、論理的思考に基づき論旨の一貫性を持った論文としてまとめ、学内で発表する。

- 到達目標：1 看護における研究の意義を学び、研究の必要性を理解する。
 2 研究のプロセスを学び、実際の進め方を理解する。
 3 研究プロセスに沿って事例を論文としてまとめ、発表することができる。
 4 専門職として継続して学び続ける研究的態度を養う。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	ケーススタディとは 進め方	講義 演習
2	研究テーマの見つけ方、研究テーマの決定	講義 演習
3	文献の種類と文献検索の方法	講義 演習
4	研究計画書の作成・概念図の作成	講義 演習
5	論文作成	演習
6	論文作成	演習
7	論文作成	演習
8	論文作成	演習
9	抄録の作成 プレゼンテーションの技法	講義 演習
10	発表原稿作成 発表準備	演習
11	演習 ケーススタディ発表会	演習
12		
13		
14		
15	まとめ ケーススタディ評価	講義 演習

評価方法 演習の参加状況

論文の作成

テキスト 古橋洋子編：はじめてでも迷わない 看護のためのケーススタディ (医学書院)

統合実習

実習目的

各領域で学んできた知識・技術を統合し、チームに於けるリーダーとメンバーの役割と責任の果たし方、及び就寝までの患者の生活と看護サービスのあり方を実践を通して学ぶ。

実習目標

1. 各領域で学んできた知識・技術を統合し、複数の患者に対して看護を実践することができる。
2. 一勤務帯（日勤帯）を通した実習をし、患者の療養生活に合わせた一日の看護業務の流れを知ることができる。
3. 学生間で看護チームを作り、その中でリーダーシップ・メンバーシップの役割を担いチームナースングの実践を体験する。
4. 入院生活で就寝までの患者の様子と夜勤帯の看護業務の実際を知る。
5. 臨床現場における倫理上の問題について、チームで取り組むことができる。
6. 看護技術の提供には技術到達度に応じて、安全性・個別性・経済性を考慮した実践ができる。